

## 河合橋デザイン検討会議



第1回会議資料 2017.9.22

## デザイン検討議題

01

議題1；デザイン検討会議の概要

議題2；デザイン・コンセプト

議題3；施設のデザインポイント

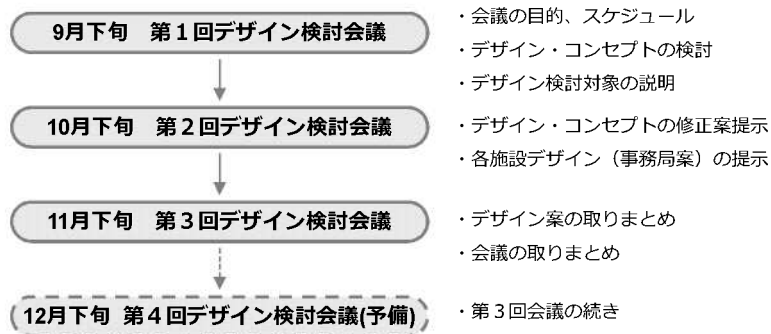
## デザイン検討会議の概要

02

### ■ 会議の目的

河合橋補修事業において、文化都市・京都にふさわしい景観に調和したデザインとするため「デザイン検討会議」を設置し、市民の皆様や専門家等から御意見を頂くことを目的とする。

### ■ 会議のスケジュールと検討内容



## デザイン検討会議の概要

03

### ■ 河合橋の概要

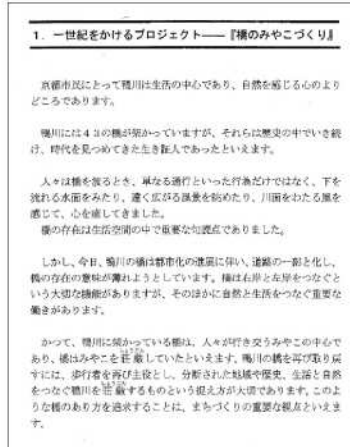


橋梁形式  
：桁橋  
架設年次  
：昭和13年  
橋長  
：59.34m  
径間数  
：3径間  
支間割  
：15.67m + 28.00m + 15.67m  
幅員構成(有効幅員)  
：10.90m (10.00m)  
※下の図参照



## ■ 他のデザイン検討会議について

- ・ 鴨川に架かる橋の改修にあたっては、「明日の鴨川の橋を考える会」からの提言を受け、周辺景観に大きく影響を与える可能性がある橋を対象にデザイン検討会議を実施している。



## ■ 過去の事例（北大路橋）

【工事前】



【工事後】



### ■過去の事例（二条大橋）

【工事前】



【工事後】



## デザイン・コンセプト

### ■デザイン・コンセプトとは

- デザイン・コンセプトは、橋の具体的な形やありさまのイメージを言葉で表現するものであり、人々にデザインの共通価値観を与えるものである。

### ■デザイン・コンセプトを作るには

橋の周辺環境や文化、歴史

デザインの方向性

デザインの目的

を把握していくことが必要となる。

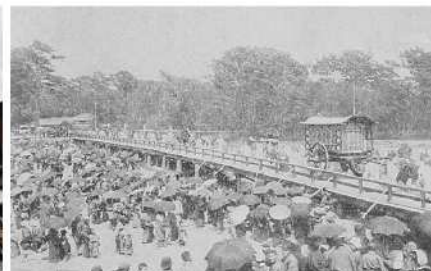
## ■河合橋周辺の概況

- 河合橋は下鴨神社へ通じる参道として親しまれている。
- 出町橋の西側は、柵形と呼ばれ、鯖街道の終点であり、物流の拠点として昔から賑わっていた。
- 下鴨神社の糺の森や北山の山並みを望む景観は、京都を代表する景観のひとつである。
- 河合橋、出町橋、賀茂大橋に囲われたエリアは、休日には大勢の人で賑わう「まちの広場」となっている。



## ■河合橋周辺の歴史

- 鴨川と高野川の合流部は、かつては糺河原として知られており、南北朝から室町期には<sup>かんじんさるがく</sup>勸進猿楽が催された場所として知られている。近年下鴨神社において<sup>ただすかんじんのう</sup>「糺勸進能」<sup>ただすかんじんさるがく</sup>「糺勸進猿楽」として再興されている。
- 京都三大祭りのひとつである葵祭りは、葵橋を渡っており、昔、河原は行列を見学する人で賑わっていた。



## ■ 河合橋周辺の橋

- 合流部に架かる賀茂大橋は、周辺の橋のなかで最大の橋であり、武田五一のデザインによる。
- 出町橋は、昭和10年の洪水により流出し、戦後に架け替えられた。

### 賀茂大橋

昭和6年（1931）竣工  
武田五一設計



### 出町橋

昭和10年（1935）の洪水で流出  
昭和29年（1954）架け換え



## ■ 河合橋の歴史

- 大正 7年（1918）：武田五一（京都大学建築学科教授）デザインにより竣工
- 昭和10年（1935）：京都大水害により流出
- 昭和13年（1938）：洪水復興事業により架け換え、竣工
- 昭和41年（1966）：下流側拡幅
- 昭和52年（1977）：上流側拡幅

※昭和10年の洪水では鴨川、高野川をはじめとして各河川にかかる橋梁の被害が大きかった。鴨川水系では北大路橋、賀茂大橋、丸太町橋、四条大橋、七条大橋を除き他の橋は全て流出している。

（「京都水害誌」京都市役所1936年）

※河合橋は復興事業により架け換えられた数少ない橋のひとつである。

（「京の橋物語」松村博1994年）





■ 武田五一が意匠設計にかかわった橋梁

武田五一は20橋の意匠設計に携わっており、「橋梁を従来の通り単に無味乾燥なものとして取り扱わず、その本来の機能を満足せしめつつ、なお付近の環境に込めしむべく、いずれも特殊な建築的手法を講ぜられている。」と評されている。  
 (「武田博士作品集」武田博士還暦記念事業会1933年)



高麗橋 (昭和4年・大阪市)  
 大阪市の橋梁事業にかかわった武田五一がデザインした橋のひとつ。橋梁に和風のデザインを用いたもので、賀茂大橋をはじめとした京都の橋のデザインに通じるものがある。



賀茂大橋 (昭和6年)  
 武田五一がデザインした京都の橋の一つ。石製高欄や歩道灯籠等、和風のデザインを用いた重厚な橋梁。

■ 京都の橋梁デザインの潮流

- 京都の橋梁デザインの一つの流れとして「西欧風の橋梁形式の上に和風のデザインを融合させようとしたもの」がある。
- 河合橋は鋼桁の上に和風の灯籠、石の高欄を載せたデザインである。同系統のデザインとしては、賀茂大橋、北大路橋、高野橋などがある。

北大路橋：  
 鋼桁に灯籠付の親柱、石の高欄で構成されている。当初のデザインを踏襲した形で、近年改修されている。



高野橋：  
 細部のデザインは異なるが基本的に北大路橋と同じ傾向のデザイン。当初のデザインを踏襲した形で、近年改修されている。





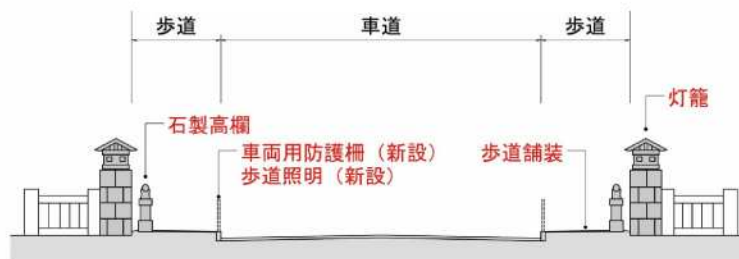
## ■デザイン・コンセプトを考える前提

- ◆河合橋周辺の地域特性
  - ・現代にも継承されている京都の歴史の舞台となっている場
  - ・鴨川デルタと呼ばれる親水空間
  - ・下鴨神社（世界遺産）、大学、商店街をつなぐ交通の結節点
- ◆橋梁デザイン
  - ・周辺環境との調和を図ったデザイン
- ◆歩行空間
  - ・安心して歩行のできるゆとりのある歩行空間整備

## ■デザイン・コンセプト

デザイン・コンセプトを考える前提を踏まえて、デザイン・コンセプトの設定を行います。

## ■デザイン検討対象施設



ブラケット (支持具) 橋桁の塗装

## 施設のデザインポイント

18

### ■デザイン検討対象施設

- ① ブラケット（支持具）
- ② 歩道舗装
- ③ 車両用防護柵
- ④ 歩道照明



ブラケット（支持具）



歩道舗装、車両用防護柵、歩道照明

## 施設のデザインポイント

19

### ■デザイン検討対象施設

- ⑤ 灯籠
- ⑥ 橋桁塗装
- ⑦ 高欄
- ⑧ 橋詰め



灯籠、高欄



橋桁塗装



橋詰め